

平成 19 年度 第 1 回海洋開発委員会 幹事会 議事録 (案)

日 時：2007 年 6 月 19 日 (水) 11:00～13:00

場 所：スクワール麹町 4 階末広

参加者：高橋委員長，関本幹事長，大塚，木村，五明，柵頼，佐々木，東江，水谷の各委員兼幹事，織田，加藤，田島，森屋の各幹事

議事内容

1. 委員長挨拶

シンポジウムに向けた最終打合せになるので，よろしくお願ひしたいという趣旨の挨拶があった．

2. 論文 WG (五明委員) からの報告

個人情報の扱いについて，もれなく関連法に関する記述をすることにする．

論文フォーマットは見栄えが悪くなければよしとする．また，**TeX** のスタイルフォーマットを佐々木先生に提供していただく．

アブストラクトに関連する論文を記述してもらうのはやめ，オリジナルかどうか回答してもらうようにする．

セッション名は方向性を示すような名前がよい．来年は早めにセッション名を議論する．また，受付と同時にセッションを割り振ることを行っている会議もある．今後は，キーワードから自動的にセッションを割り振るシステムなどを検討してはどうか？

論文名はプラス側の変更であれば認める．著者は原則変更不可とする．どうしても著者の変更を行いたい場合は，幹事会で判断する．また，これらのルールを投稿フォームに記載する．

依頼論文と一般論文が同じ論文に区別無く載っていることについて，整理が必要である．特別セッションの依頼論文はオーガナイザーとコーディネーターが責任を持って査読し，一般論文との査読レベルを揃える．依頼論文は 1 次査読は行っていないが，1 次査読は投稿者数の把握と概略内容のチェックのために行っているため，依頼し受けていただくことで 1 次査読をクリアしているものと判断できる．特別セッションで査読レベルが確保できないような場合には，論文なしでパネラーのみの参加とする方法もある．

論文数が多い著者がいるが，アクティビティーが高いということで，同一著者の論文数制限などは行わない．

3. シンポジウムについて (幹事長から) の報告

① 懇親会について

② 見学会について

③ 海の移動教室について

④ 幹事の役割分担

長崎県にのべ宿泊者数を報告することで補助金がもらえる。受付で来場者に宿泊ホテルと泊数を記入していただく。受付に担当幹事がつく。また、司会者にしつこくアナウンスしていただく。

9日の海の移動教室は11:00開始に変更予定である。また、柵頼委員にお手伝いいただく。

9日18:30～会場の準備を行うため、幹事の手伝いが必要である。参加可能な各幹事から幹事長へ参加表明があった。

10日夜の懇親会、11日午前と午後の見学会に幹事の手伝いが必要である。幹事長が役割分担リストを作成し、メールにて各幹事に連絡する。

4. 委員会について（幹事長から）の報告

10日 12:20～13:00 長崎新聞社の長崎ホール 部屋は多田先生が確認中。

論文応募数と採択数、論文集の発行部数と購買部数について、五明委員が報告予定。

参加人数の速報、関連イベントについて、関本幹事長が報告予定。

5. 次回シンポジウムについて（幹事長から）の報告

来年度のシンポジウムは倉敷、岡山大の前野先生にサポートしていただく。開催予定日は第一候補6月30日～7月2日、第二候補6月25～27日。今年度より予定が早まったのはISOPEと重ならないように配慮したため。今年の7月後半に幹事長が倉敷に行く予定である。

6. 改革小委員会（木村小委員長）からの報告

特別講演会の報告、今後、特別講演会での議論内容のHPへのアップを行っていく。

座長企画型セッションには、海洋開発委員会として取り組むべきと考えるテーマについて、境界領域の分野やアクティビティーが落ちてきている分野に刺激を与え、研究が活発になるカンフル剤の役割を期待する。

論文が出ていないけれど結構重要なテーマ、世界的には行われているが日本の学会で発表されていないテーマ、将来的に残したいテーマ、世界的な大プロジェクトにおける課題などを扱った事例紹介などが、座長企画型セッションで扱われると良いのではないかと若い研究者を刺激するようなテーマがよい。

座長企画型セッションの企画案として、大塚委員から‘海氷工学のいま’、五明委員から‘浮泥に関する定義、学際的理解と沿岸流域圏での諸問題について’が提出された。

特別セッションとしては、他分野とのコラボレーションということで、地盤分野との境界を埋める方向はどうか？前野先生に担当していただき、地盤・防災の話はどうか？

特別セッションのご当地セッションとしては、倉敷を考えると、歴史的町並み、干

拓、塩田の跡地利用、環境問題などが考えられる。

特別セッションとして、海洋法そのものを議論するという案もある。海洋基本計画をどう考えるか？海洋開発委員会として、ターゲットを絞った話をしてはどうか？次回特別セッションでは1年以上空いてしまうので、今年の10月頃行う何らかの企画を考えても良い。

改革小委員会の活動に関しては、様々な議論が行われた。次回の委員会にどのような資料を提出するかは改革小委員長に再検討いただく。

6. 研究小委員会、その他について（佐々木委員、森屋幹事）からの報告

（1）佐々木委員より‘外海水導入システム研究小委員会設置準備’の報告

委員会のメンバーである清水建設に声をかけていない。佐々木小委員長の判断で決めてもらえばよい。

土木学会に対する書類は提出済み。日本鉄鋼連盟より単年度で200万円提供される。単年度で使い切ることになるが、余れば土木学会本体の収入となる。

旅費については、資料記載の費用の全額至急が承認された。幹事も全員が小委員会の委員となっており、幹事の旅費も小委員会の費用で負担する。

（2）森屋幹事より‘アセット小委員会’についての報告

7月10日の午後に小委員会立ち上げのための打ち合わせを行う。打ち合わせの会場と使用可能時間については、後日、幹事長より連絡する。

土木学会への研究助成金の申請は、認められなかった。

（3）森屋幹事より‘海洋工学シンポのオーガナイズドセッション’についての報告

①順応的管理、古川委員、土木・沿岸域・水産の連携、②津波防災、富田氏（港空研）、土木・沿岸域・建築・船舶海洋との連携、③大山氏より提案、閉鎖性海域の生態環境の評価・改善（仮）、勝井氏（大成建設）、土木・沿岸域・水産工・船舶海洋との連携の3案を海洋工学シンポの実行委員会へ提案する。

7. その他

外部資金として、科研費の企画調査費に応募してみてもどうか？

賞について、改革小委員会で再度検討する。若手の賞についても考えていく必要がある。

地球環境委員会への委員の派遣、以前は清水委員が担当、現在は柵頼委員が担当している。今後、人選していく。

次回幹事会は7月31日14:30～17:30、土木学会にて開催予定。